ワイドシャッターS - Cタイプ - （電動タイプ） 取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
⚠警 告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
⚠注 意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補 足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

＜施工の前に＞

⚠注 意

●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
●製品破損による人への被害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください
・ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記締付けトルクで固定した後にゆるみががないか確認してください。
＜推奨トルク＞ φ4ネジ　：　2.5N·m±0.5N·m（25±5kgf·cm）
M10ボルト：34.0N·m±0.5N·m（340±5kgf·cm）

ポイント

●正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
●施工終了後、取扱説明書と鍵は施主様にお渡しください。

＜施工上のご注意＞

⚠注 意

●取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
●ボルト，ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
●アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
●腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
●製品の改造は絶対にしないでください。
●施工終了後は、ボルト，ネジなどにゆるみがないか確認してください。

＜施工上のご注意＞ つづき

ポイント

●施工工事にあたっては、安全に施工を行ってください。
- ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
- ・作業場所の整理整頓を行うとともに、安全確保を行ってください。
  特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
- ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
- ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行ってください。
- ・作業者が相互に安全確認を行ってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
- ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行い、救助を第一に心がけてください。

●施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

＜基礎工事について＞

注 意

●基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めていますが、現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。

●寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。

●塩分を含む砂および塩素系のモルタル混和剤は使用しないでください。腐食の原因になります。

●モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。

●製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。

●基礎の養生期間は十分にとり、その間に重い物を乗せたり振動を与えたりしないように指示してください。

ポイント

●コンクリート（またはモルタル）には、急結剤は使用しないでください。使用するとアルミが腐食する原因になります。

＜電気配線工事について＞

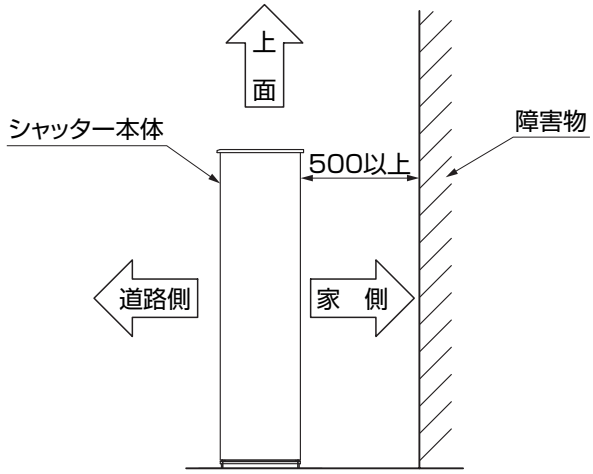
注 意

●AC100V電線の埋設工事、配線工事に関しては電気工事店の有資格者に依頼してください。

取付け区分表

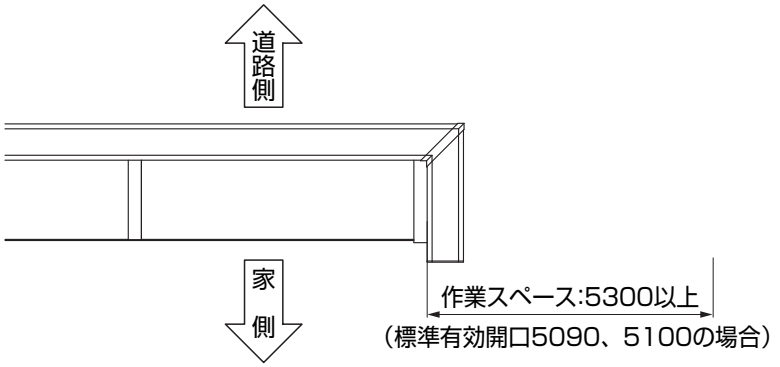
施工工程	施工担当者
壁ユニット工事	販売店、工務店 販
電気工事	電気工事店 電
基礎コンクリートの施工	販売店、工務店 販
シャッター工事	三和シヤッター工業（株） S
土間仕上げ	販売店、工務店 販

1. 施工前の重要確認事項



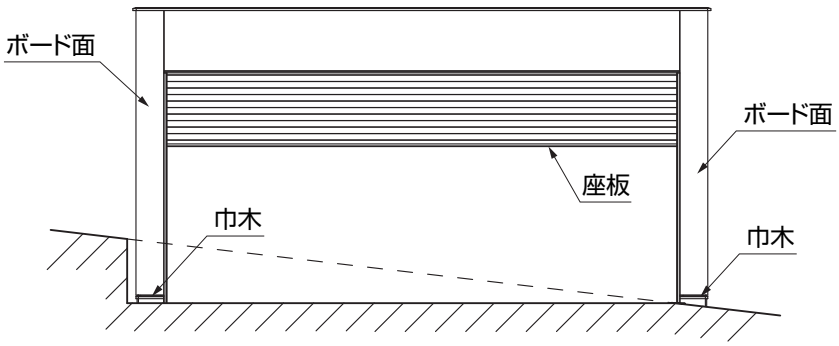
ポイント

- ●シャッター本体の家側スペースは500mm以上あけてください。スペースが少ないとシャッターが組付かない場合があります。
- ●シャッター本体の上面は障害物がないようにしてください。修理・メンテナンス作業ができなくなります。



ポイント

- ●アルミスラットシャッターおよびハイリンクスラットシャッターの施工では、本体片側からスラットをスライドしながら組付ける作業があります。シャッターの左右どちらかに左図のスペース以上を確保してください。

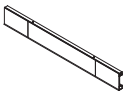
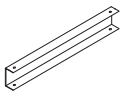


ポイント

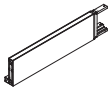
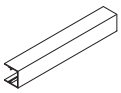
- ●シャッターを傾斜地に施工する場合でもシャッターの開口部分の土間は水平になるように施工してください。勾配や不陸のある場合、作動不良の原因になります。
- ●傾斜地などでシャッター座板接地面を溝状に施工する場合は、水はけや清掃性を十分考慮してください。水溜まりができたり、砂等が溜まりやすいと動作不良の原因になります。
- ●傾斜地などで壁や柱を埋込む場合は、レールステイカバーやガイドレールの脱着ができるようにしてください。修理、メンテナンスの作業ができなくなります。
- ●巾木より上のボード面は絶対に埋込まないでください。変形やふくれの原因になります。

2. 梱包明細表

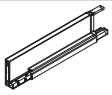
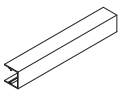
【1】壁ユニット：前面パネル

名　　称	略　　図	員　数
前面パネル		1
間口寸法ガイド		1

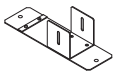
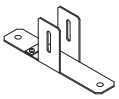
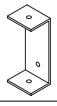
【2】壁ユニット：側壁（右）

名　　称	略　　図	員　数
側壁右		1
縦見切追加部材		1

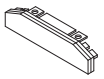
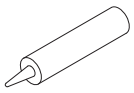
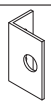
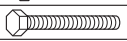
【3】壁ユニット：側壁（左）

名　　称	略　　図	員　数
側壁左		1
縦見切追加部材		1

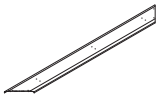
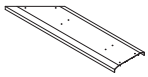
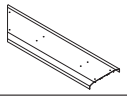
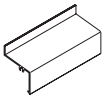
【4】壁ユニット：部品

名　　称	略　　図	員　数
前柱用ベースプレート		2
後柱用ベースプレート		2
ベースプレートレベル調整金具		8
前面パネル取付金具		4
前面パネルレベル調整金具		2
間口寸法ガイド材固定金具		2
笠木コーナーキャップ		2

【4】壁ユニット：部品（つづき）

名　　称	略　　図	員　数
笠木端部キャップ		2
シーリング材		1
光電センサー受け部品		4
【4-1】M12×22アイボルト		6
【4-2】M10ホールインアンカー L=60		8
【4-3】M10アンカーボルト用ナット		8
【4-4】M10アンカーボルト用座金		8
【4-5】M10×100六角ボルト		10
【4-6】M10×150六角ボルト		2
【4-7】M10六角ナット		4
【4-8】M10平座金		8
【4-9】M10バネ座金		8
【4-10】M10×25座金組込 六角ボルト（PW+SW）		16
【4-11】M8×30六角ボルト		2
【4-12】φ4×10 ナベタッピンネジ3種		46
【4-13】φ4×13ナベドリルネジ		26
【4-14】φ4×19座金組込 ナベドリルネジ（PW+樹脂W）		24
【4-15】φ4×12座金組込 ナベタッピンネジ3種（PW+樹脂W）		4
【4-16】φ4×13座金組込 ナベドリルネジ（PW+樹脂W）		30
取付説明書（D577）	−	1
取扱説明書（UD122）	−	1
Cタイプ仕上げ施工注意説明書（D582）	−	1

【5】壁ユニット：笠木

名　　称	略　　図	員　数
正面用笠木		1
右側壁用笠木		1
左側壁用笠木		1
水切り		1

【6】シャッター工事用取付ネジ

名　　称	略　　図	員　数
φ4×13座金組込 ナベドリルネジ（PW+樹脂W付）		35
φ4×10ナベドリルネジ		4
φ4×25座金組込 ナベドリルネジ（PW+樹脂W付）		8

補 足

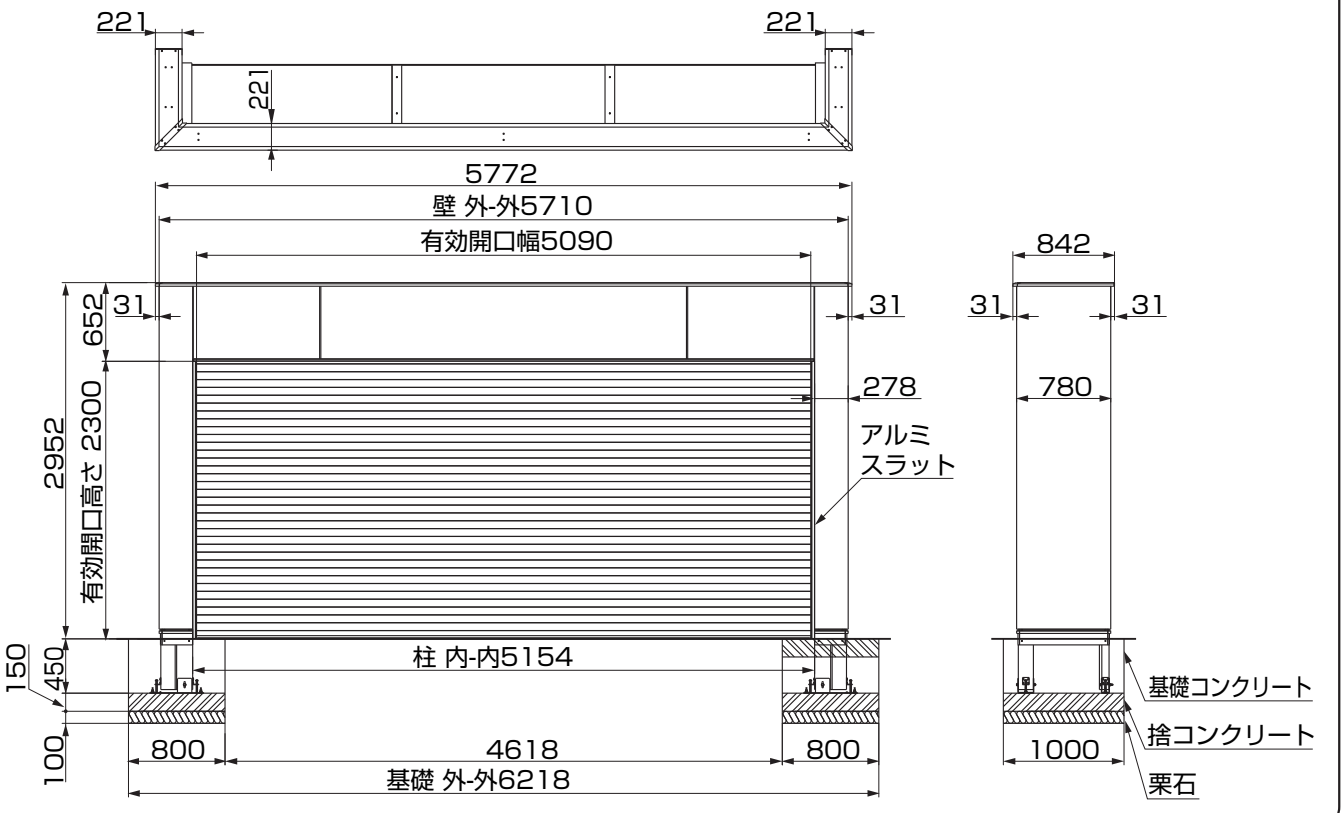
●ネジの員数は、必要数を表示しており、ネジにより予備も同梱しているものもあります。

ポイント

●壁ユニットの部品箱に同梱されている、光電センサー受け部品と、シャッター工事用取付ネジはシャッター工事で必要になりますので、シャッター工事の時に、工事士にお渡しして頂くか、柱にテープで固定して無くさないよう、お願いします。

3. 基本寸法と各部名称

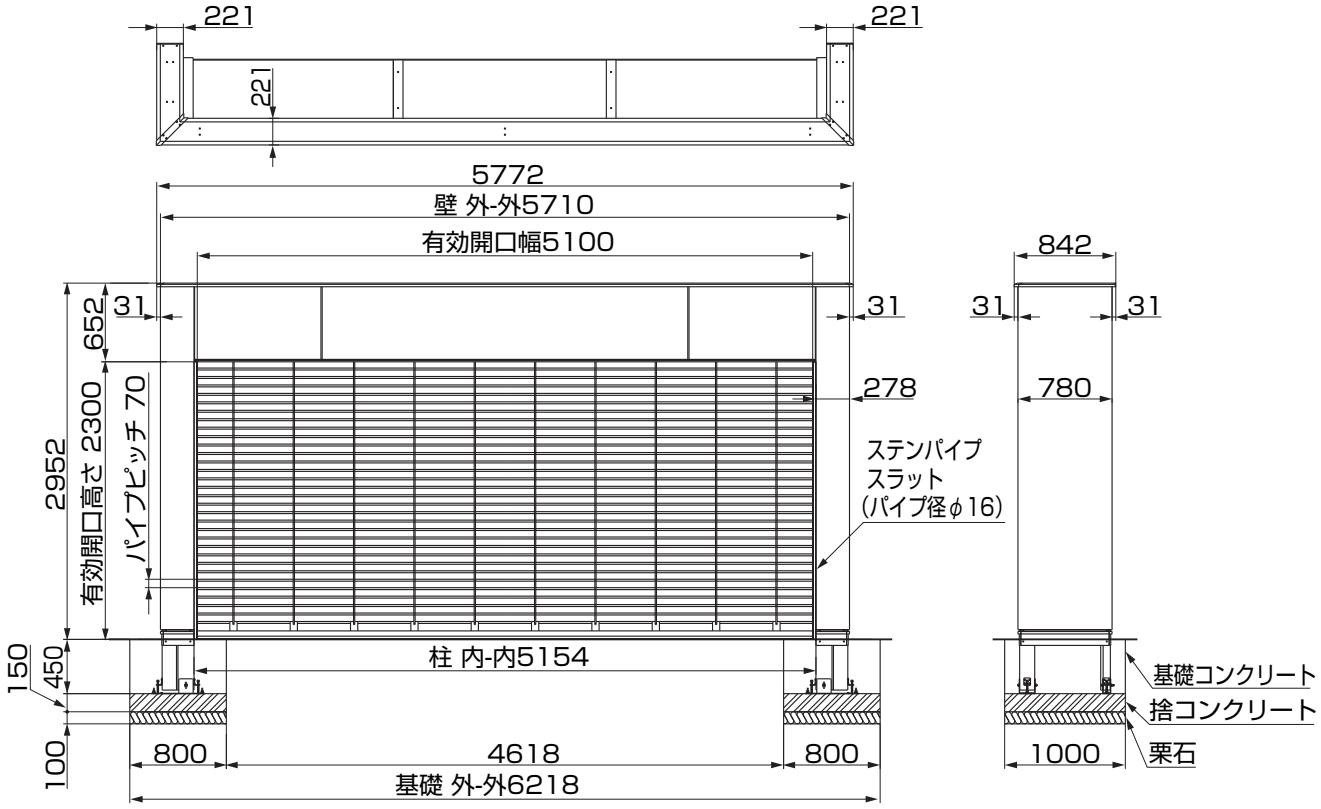
3-1　アルミスラット



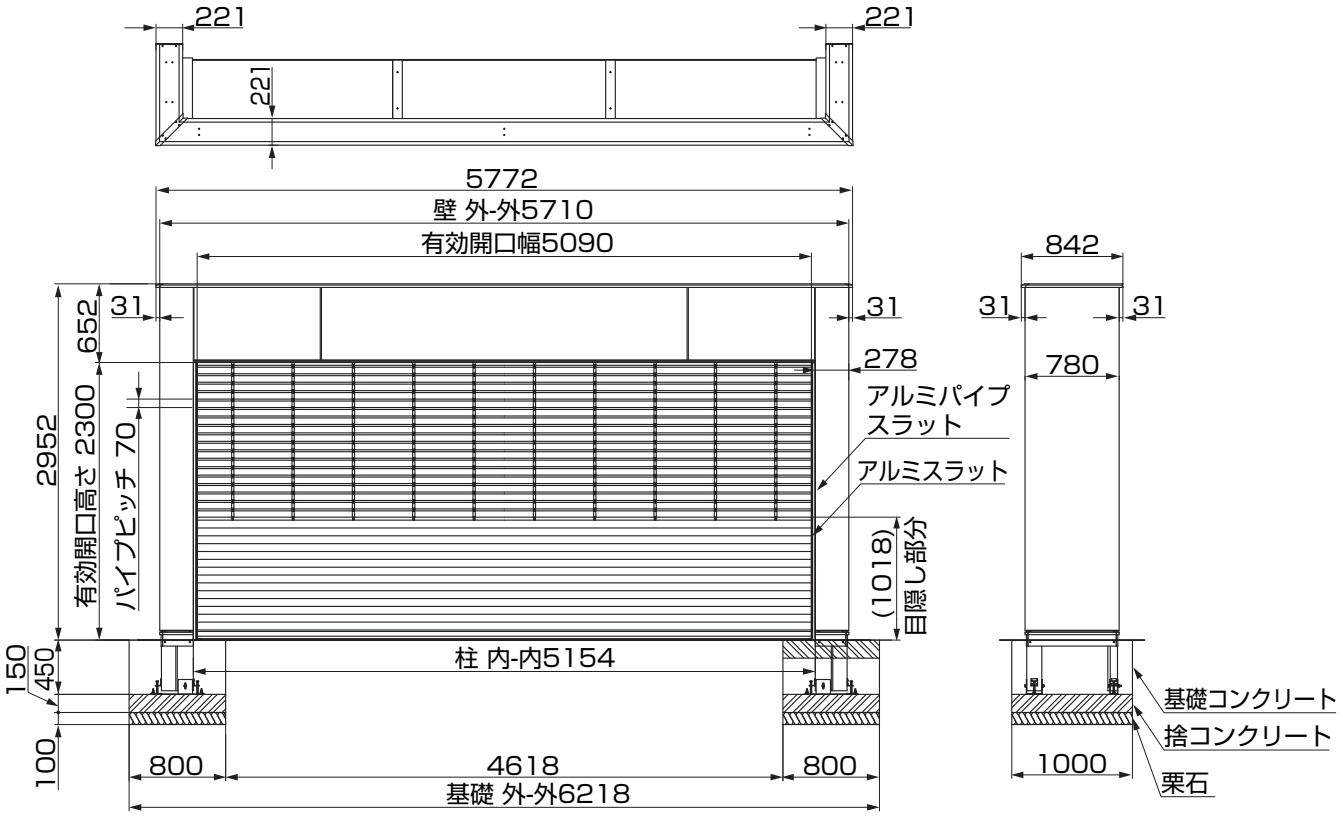
D577_201403A

3.（つづき）

3-2 アルミパイプスラット、ステンパイプスラット ※図はステンパイプスラットを示します。



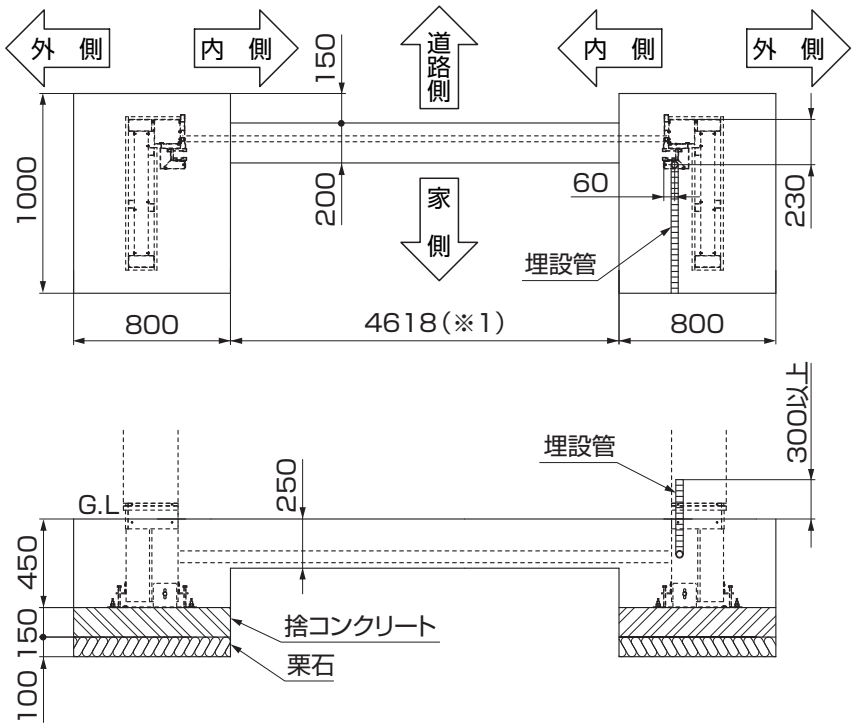
3-3 ハイリンクスラット



D577_201403A

4. 壁ユニットの施工1 販 工事

4-1 基礎の施工

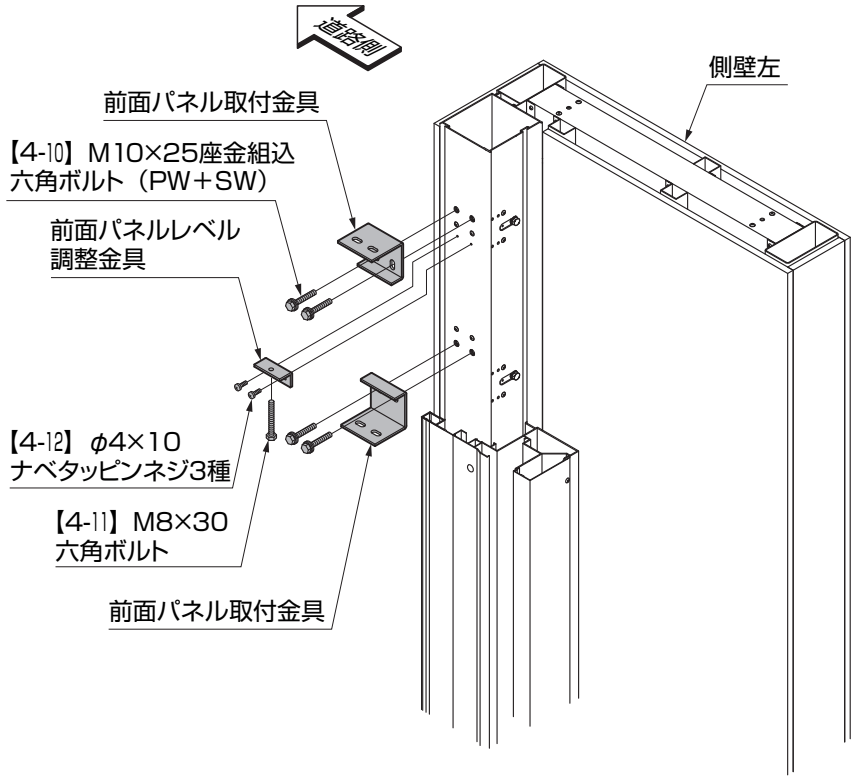


①図にしたがって栗石を敷き、捨コンクリートを施工してください。
②AC100V一次電源線用の埋設管を家側から外観左側の基礎穴まで配管してください。

補足

- ●埋設管は、必要な長さを別途手配してください。
- ●埋設管はG.L.面よりも300mm以上の範囲で出してください。
- ●※1は基礎内々寸法です。

4-2 前面パネル取付金具の取付け



①前面パネルレベル調整金具を左右の側壁に【4-12】で取付けてください。
②前面パネル取付金具を左右の側壁に【4-10】で取付けてください。

ポイント

- ●前面パネル取付金具は、上下同じ物を使用しますが、向きに注意してください。

③前面パネルレベル調整金具の下方向から【4-11】を軽くねじ込んでください。

4.（つづき） 販 工事

4-3 ベースプレートレベル調整金具とベースプレートの取付け

（1）通常施工の場合

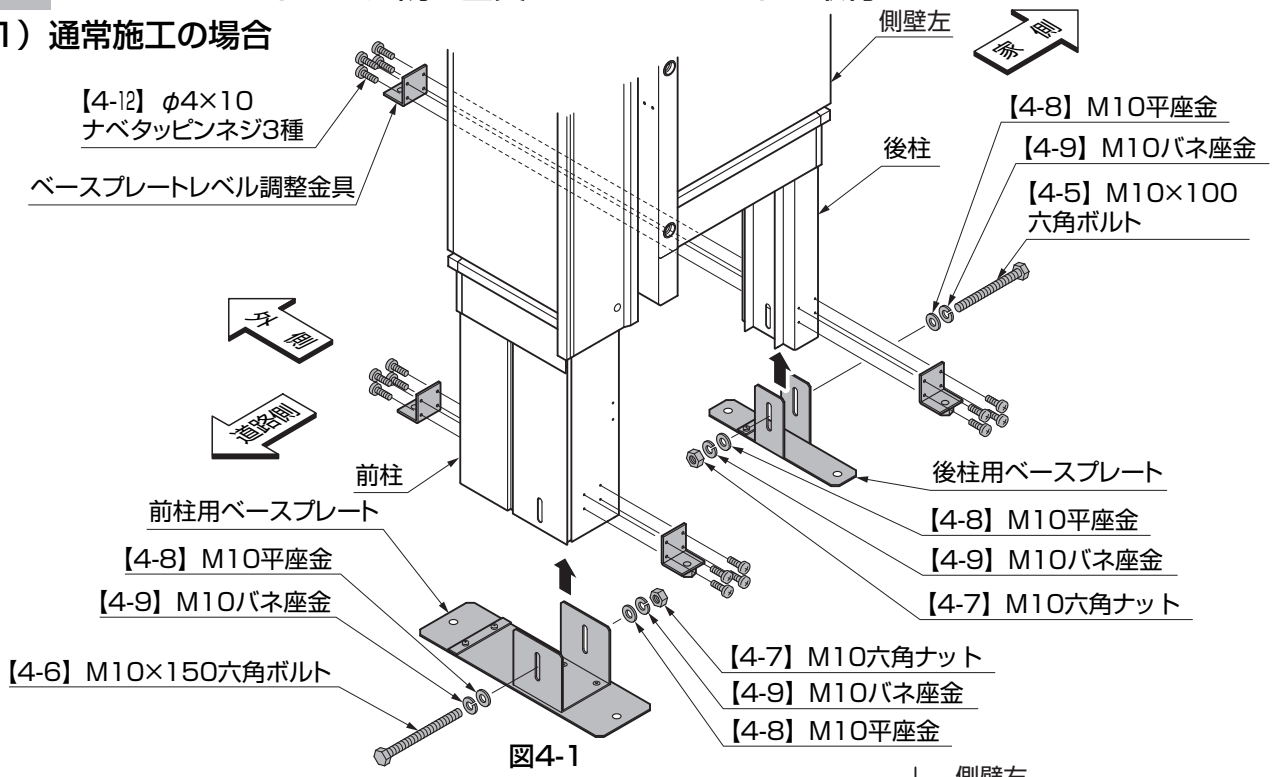


図4-1

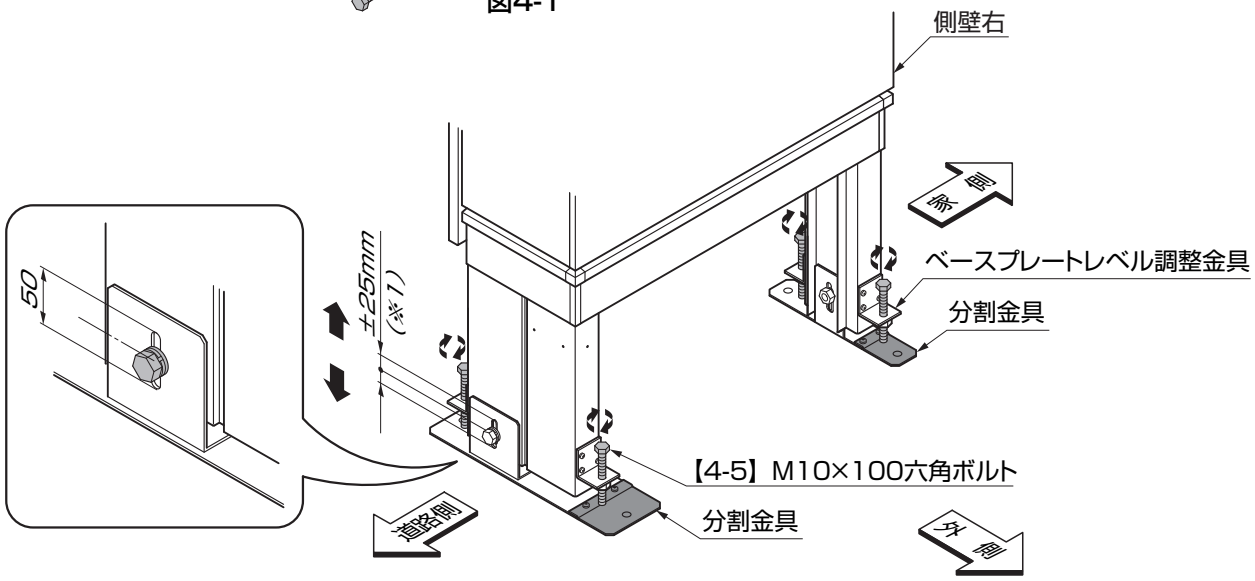


図4-2　ベースプレート調整手順詳細図

①ベースプレートレベル調整金具を前柱と後柱に【4-12】で取付けてください。（図4-1参照）
②前柱用ベースプレートを前柱に【4-6】、【4-7】、【4-8】、【4-9】で取付けてください。（図4-1参照）
③後柱用ベースプレートを後柱に【4-6】、【4-7】、【4-8】、【4-9】で取付けてください。（図4-1参照）
④ベースプレートレベル調整金具に上方向から【4-5】を軽くねじ込んでください。（図4-2参照）

補 足

●各ベースプレートには向きがあります。分割金具の方が外側を向くように取付けてください。
●最終的なレベル調整は、「6.基礎コンクリートの施工　6-3 間口寸法と側壁の倒れ調整」時に【4-5】、【4-6】を使って±25mmの範囲（※1）で調整してください。（図4-2参照）
●最終レベル調整が終わったら、【4-5】と【4-6】を本締めしてください。

（2）隣地境界際へ施工の場合　※ここでは隣地境界際への施工方法を説明しています。
標準仕様の場合は「 4-4 前面パネルの仮取付け」に進んでください。

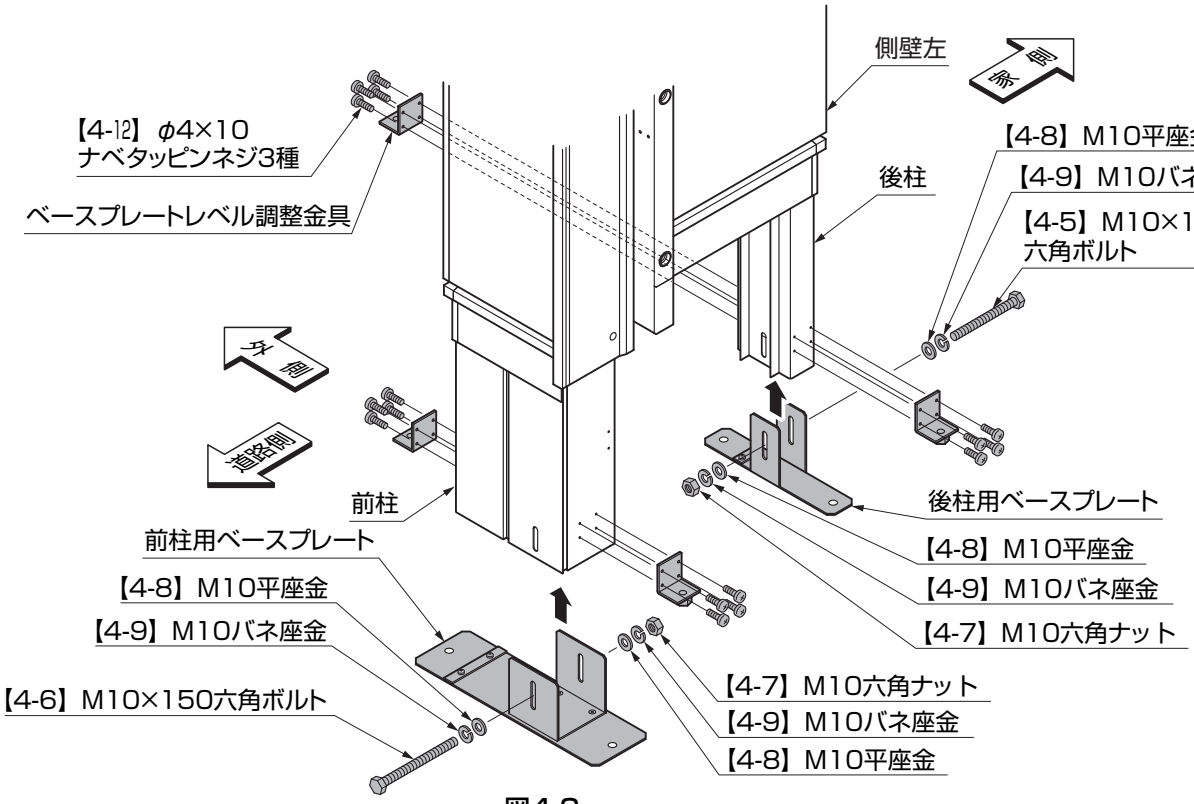


図4-3

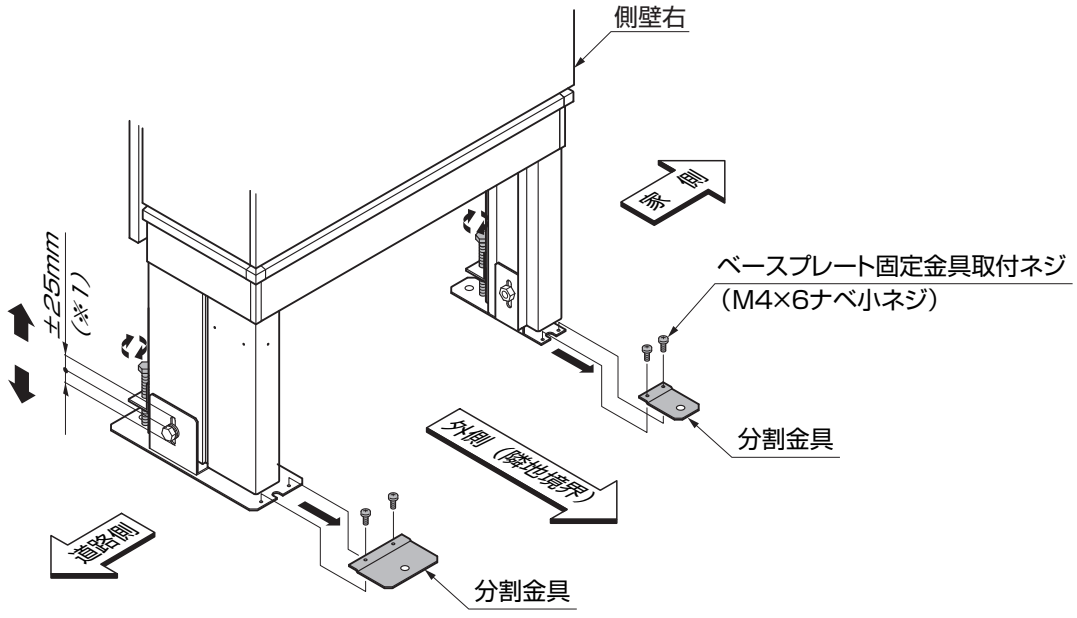


図4-4

①分割金具を取外して施工してください。（図4-4参照）

補 足

●壁側への基礎コンクリートかぶり厚は、十分確保してください。

4.（つづき） 販 工事

4-4 前面パネルの仮取付け ※安全に施工するために、添え木をして側壁の転倒を防止してください。

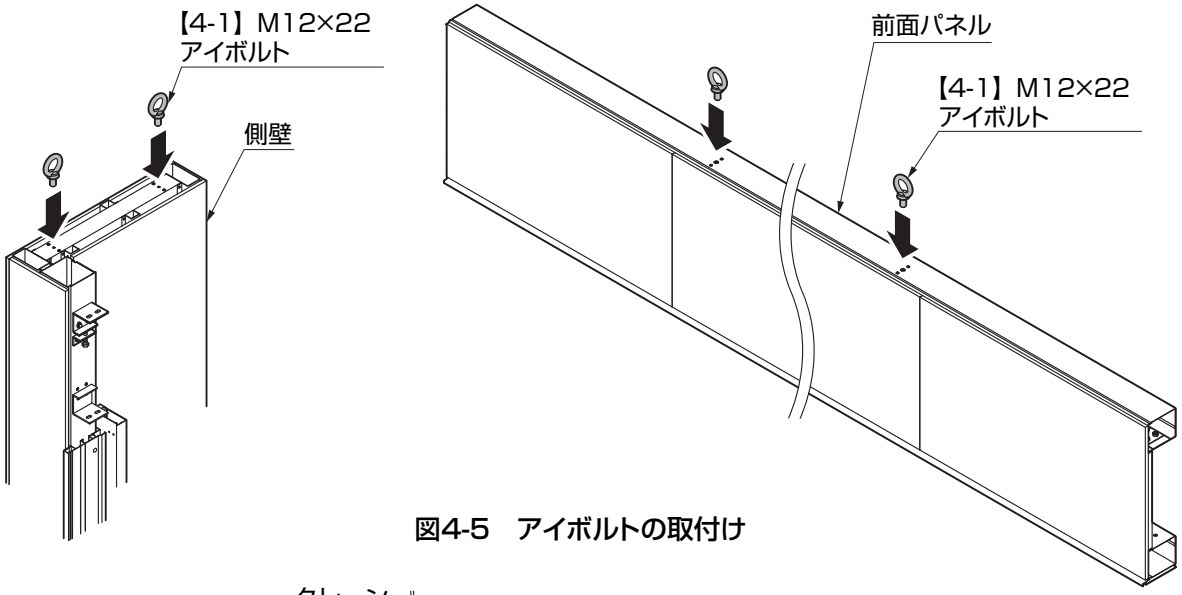


図4-5　アイボルトの取付け

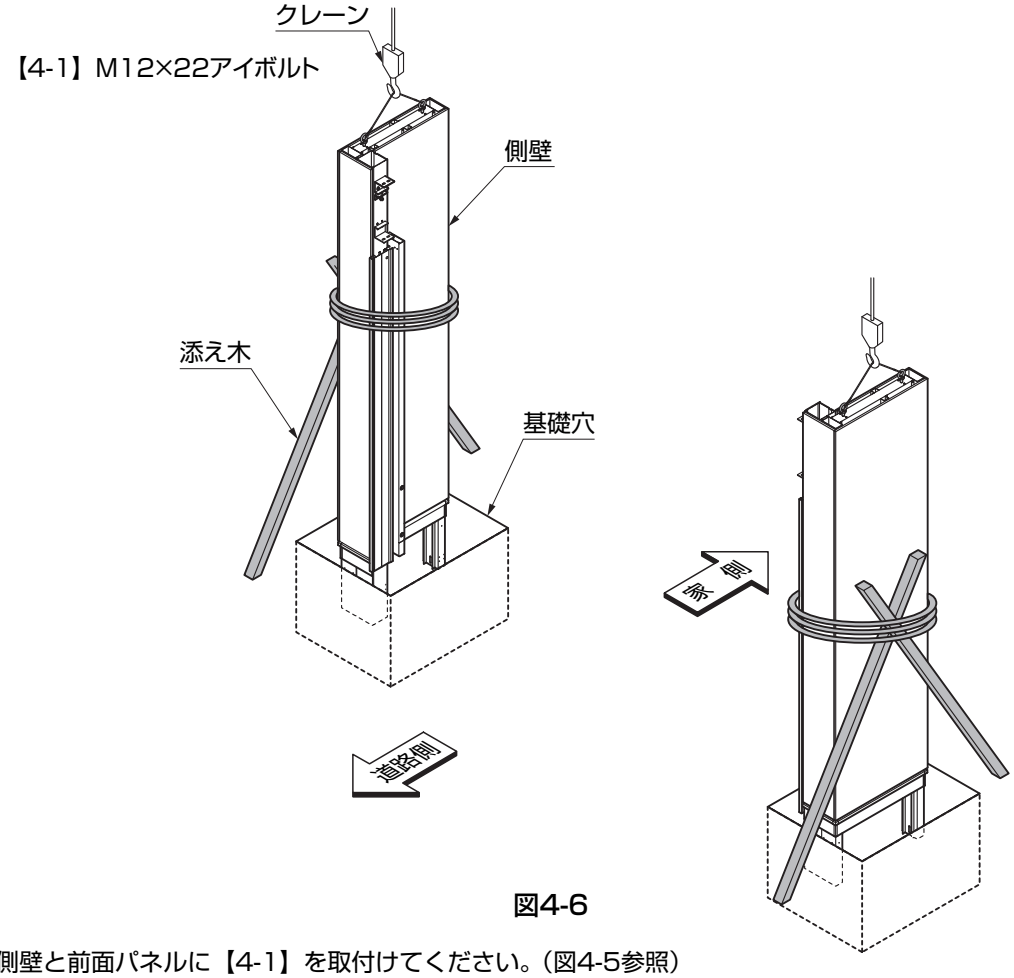


図4-6

①側壁と前面パネルに【4-1】を取付けてください。（図4-5参照）
②基礎穴に側壁を立てて、添え木等で左右壁ユニットが倒れないように固定してください。（図4-6参照）

補 足

●現場の状況によって【4-1】を使用し、クレーンで吊り上げてください。
●添え木をする際には、各側壁にキズが付かないように養生してください。

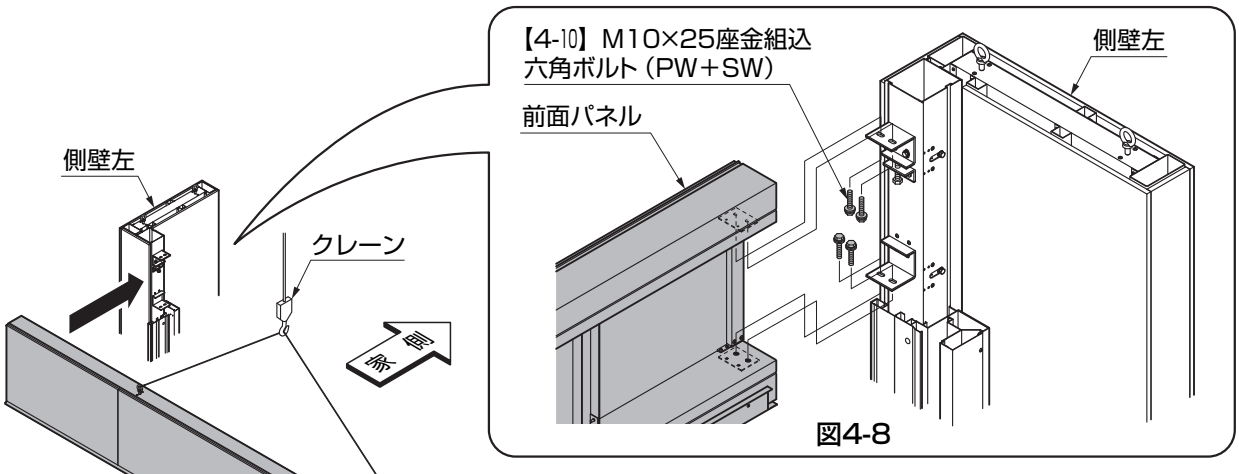


図4-8

図4-7

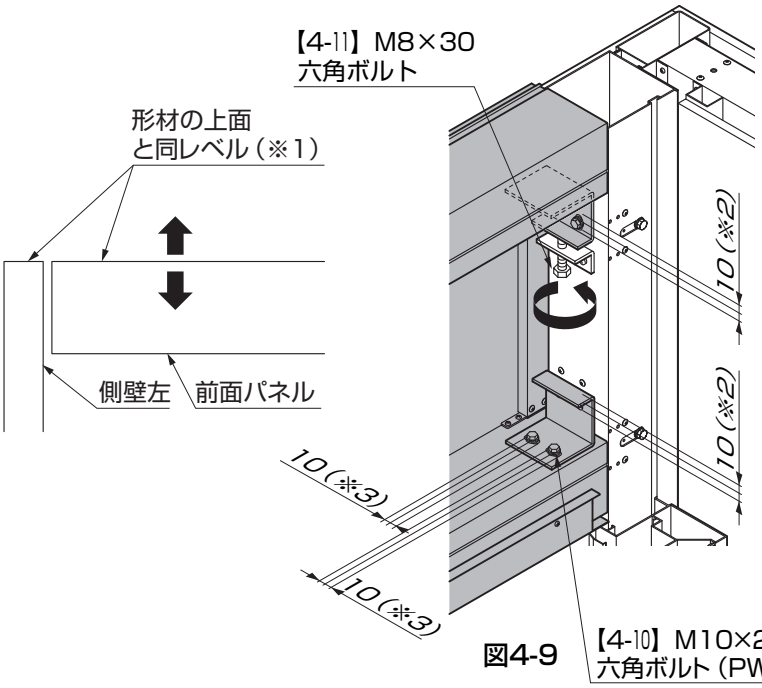


図4-9

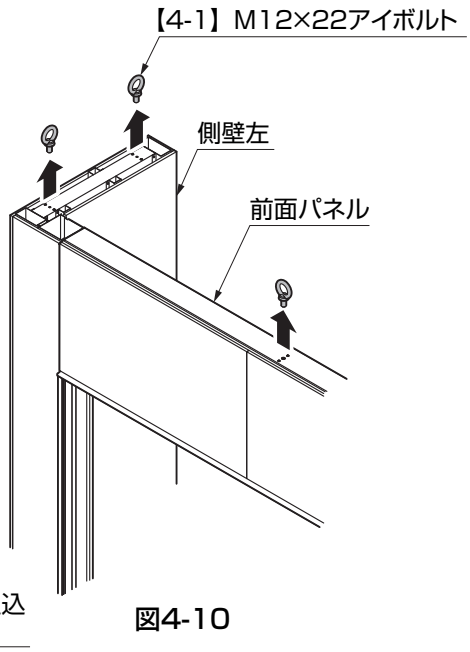


図4-10

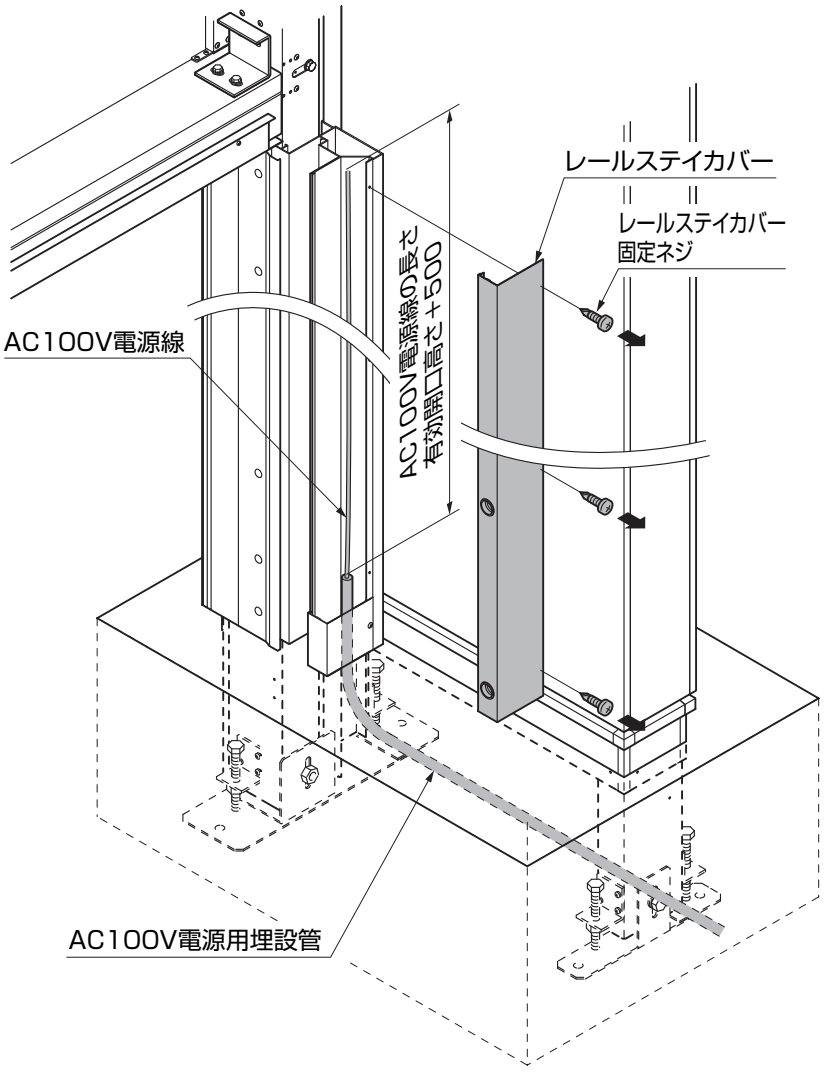
③前面パネルを左右の側壁に【4-10】で仮固定してください。（図4-7、図4-8参照）
④前面パネルを調整してください。（図4-9参照）

補足

●左右の側壁と前面パネルの面と高さ（※1）が合うように、【4-11】で前面パネルの位置を調整してください。調整範囲は±5mm（※2）です。
●前面パネルの上下桟の【4-10】をゆるめて柱とパネル前面が同じ面になるように、調整範囲±5mm（※3）で調整してください。

⑤前面パネルの仮固定後に【4-1】を取外してください。（図4-10参照）

5. AC100V電源線の引込み 電 工事



警 告

●安全のため家側からのAC100V電源を切ってください。感電するおそれがあります。
●AC100Vの分岐や配線工事は電気工事有資格者が行なってください。

注 意

●施工中、雨が降りそうなときは、柱およびレールステイ上部を養生してシャッター取付けまで雨等が入らないようにしてください。

①レールステイカバーを固定しているネジを外してレールステイカバーを取外してください。
②住宅側からのAC100V電源用埋設管にAC100V電源線を通して、シャッターの左柱まで引出してください。
③住宅側からのAC100V電源をOFFにしてください。
④レールステイにレールステイカバーを組付けてください。

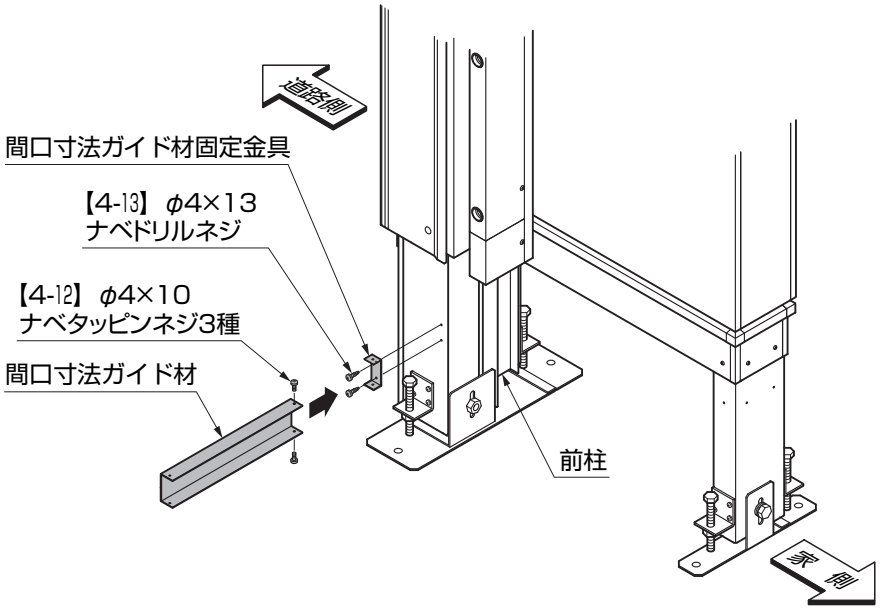
補 足

●電源用埋設管および一次電源線は必要な長さを別途手配してください。

D577_201403A

6. 基礎コンクリートの施工 販 工事

6-1 間口寸法ガイド材の取付け

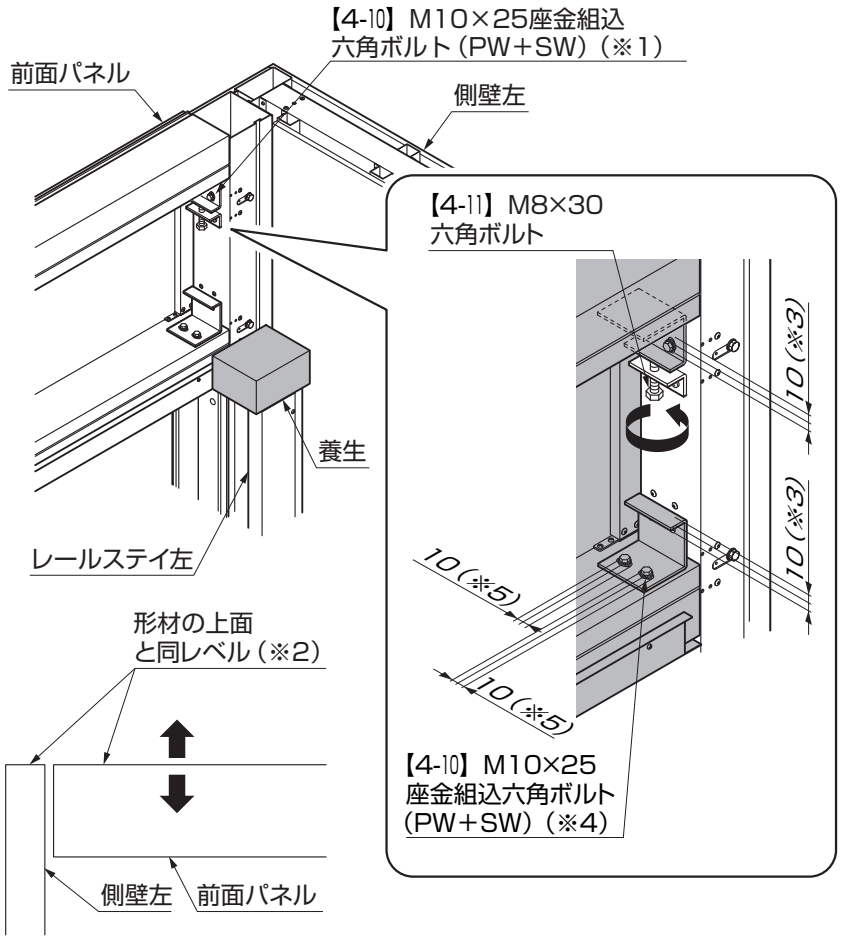


①間口ガイド材固定金具を前柱に【4-13】で取付けてください。
②間口寸法ガイド材を間口ガイド材固定金具に【4-12】で取付けてください。

補足

●間口寸法ガイド材は、間口寸法の施工精度を高めるための施工冶具です。
●既に左右側壁間の土間が仕上っている場合や、GL面以下に障害物があるときには取付かない場合があります。その場合は、間口寸法ガイド材は使えません。

6-2 前面パネルのレベル調整とレールステイの養生



①左右の側壁と前面パネルを組付けている【4-10】（※1）をゆるめてください。

②左右の側壁と前面パネルの面と高さが合う（※2）ように、【4-11】で前面パネルの位置を調整してください。調整範囲は±5mm（※3）です。

③前面パネルの上下桟の【4-10】（※4）をゆるめて柱とパネル前面が同じ面になるように、調整範囲±5mm（※5）で調整してください。

④最終レベル調整が終わったら、【4-10】を本締めしてください。

⑤レールステイ左の上部を養生し、シャッター取付けまで雨等が入らないようにしてください。

6.（つづき） 販 工事

6-3 間口寸法と側壁の倒れ調整 ※各部の寸法は許容範囲を厳守してください。

（1）間口寸法

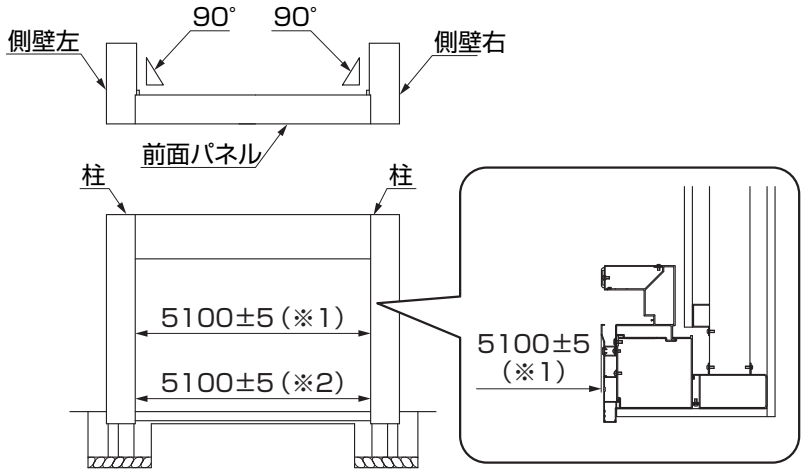


図6-1

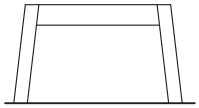


図6-2　寸法以上のイメージ

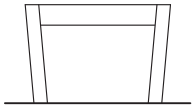


図6-3　寸法以下のイメージ

①側壁右・側壁左と前面パネルの直角を出してください。
②上下2箇所の柱内々寸法は、スケールを使用して5100±5mm（※1）（※2）の範囲にしてください。

注 意

- ●図6-2のように間口下端（※2）の寸法が許容範囲を超えて広くなった場合は、シャッター耐風圧性能が低下して、シャッターがレールから外れるおそれがあります。
- ●図6-3のように間口下端（※2）の寸法が許容範囲より小さくなった場合は、シャッターが取付けられなかったり、シャッター取付け後に異音やキズが発生して正常に作動しなくなる場合があります。

（2）側壁の倒れ

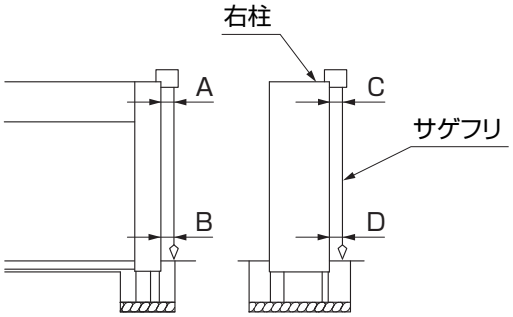


図6-4

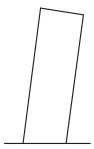


図6-5
寸法を外れたイメージ

①測定はサゲフリを使用して、図6-4の側壁上端と下端のA部とB部、C部とD部を測定してください。
②柱の間口方向の倒れは、±2.5mm、奥行きの倒れは、±2mmの範囲にしてください。

注 意

- ●柱の上部と下部の相対寸法差が上記「②」の寸法を超えた図6-5の場合、シャッターが取付けられなかったり、シャッター取付け後に異音やキズが発生して正常に作動しなくなる場合があります。

（3）左右側壁の高低差

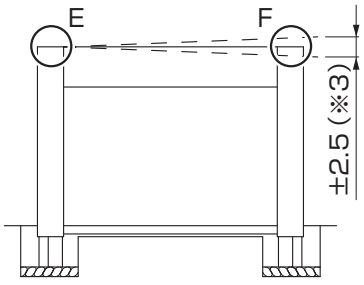


図6-6

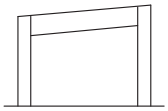


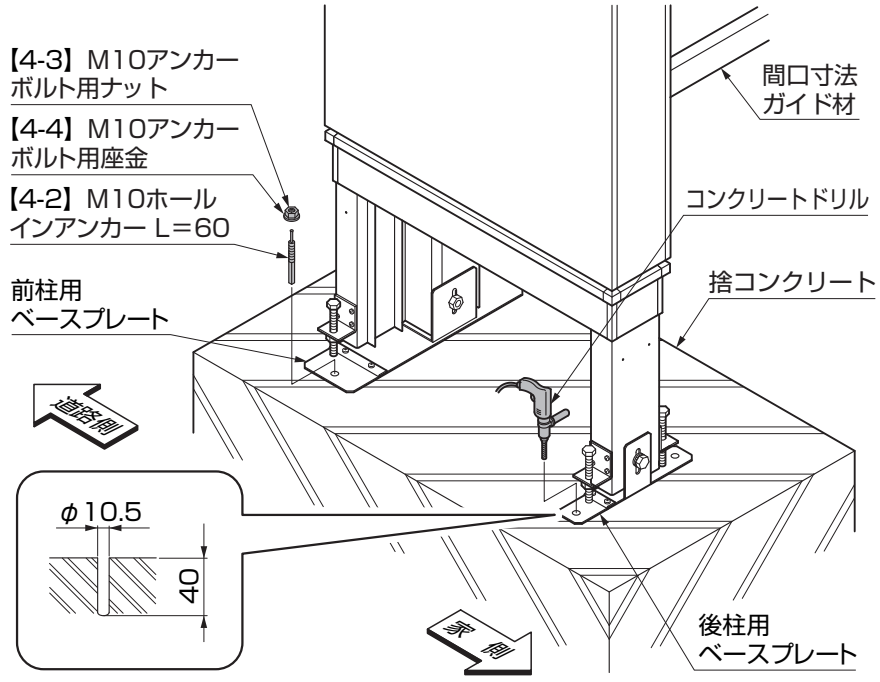
図6-7
寸法を外れたイメージ

①測定部E部に対してF部の高さが±2.5mm（※3）の範囲になるように調整してください。

注 意

- ●許容範囲（※3）を超えた図6-7の場合、シャッターが取付けられなかったり、シャッター取付け後に異音やキズが発生して正常に作動しなくなる場合があります。

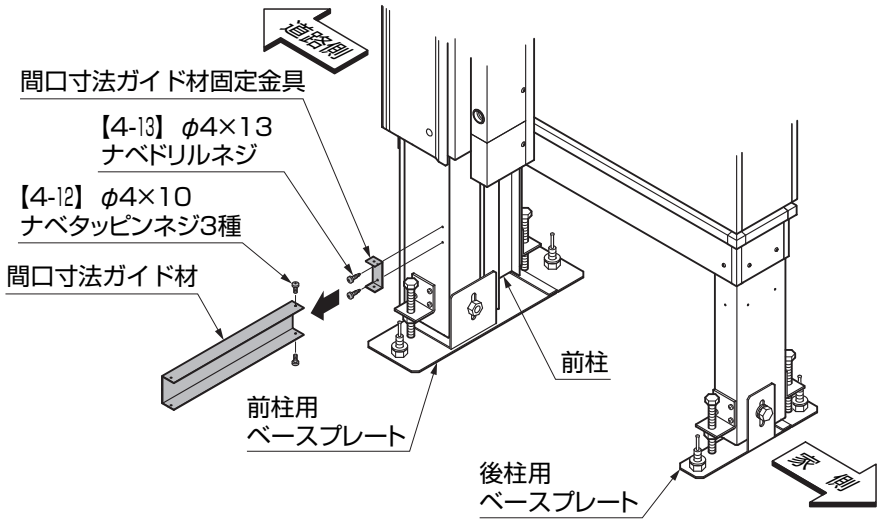
6-4　ベースプレートの捨コンクリートへの固定



①側壁のベースプレート部分から直径10.5mm深さ40mmの下穴を捨コンクリートにコンクリートドリルであけてください。

②側壁左・側壁右を捨コンクリートに【4-2】、【4-3】、【4-4】で固定してください。

6-5　基礎コンクリートの打設・養生



①【4-12】を外して間口ガイド材固定金具から間口寸法ガイド材を取外してください。

②【4-13】を外して前柱から間口ガイド材固定金具を取外してください。

③基礎コンクリートを300mmの厚さで打設してください。(図6-8参照)

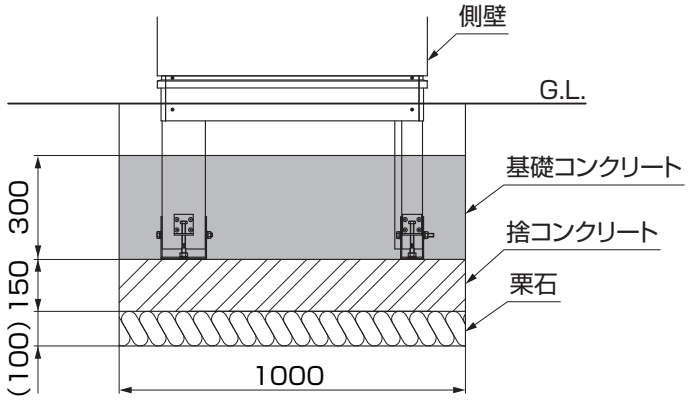


図6-8

6.（つづき） 販 工事

6-6 水切りの取付け

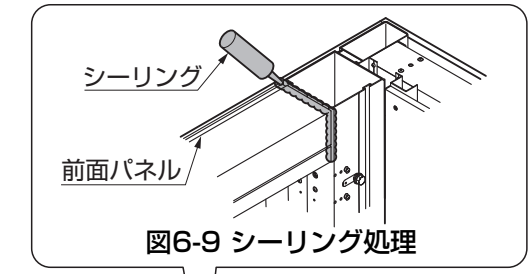
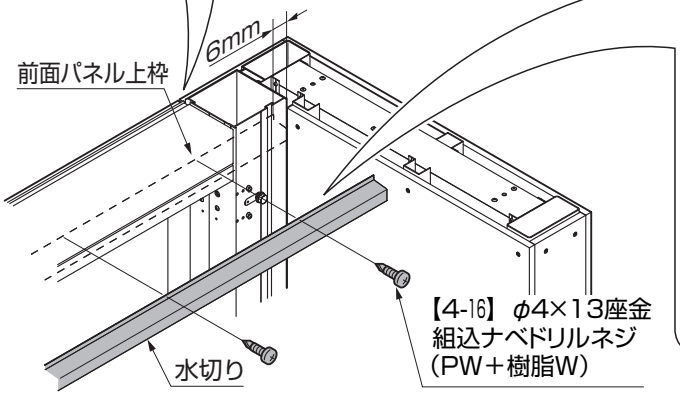


図6-9 シーリング処理



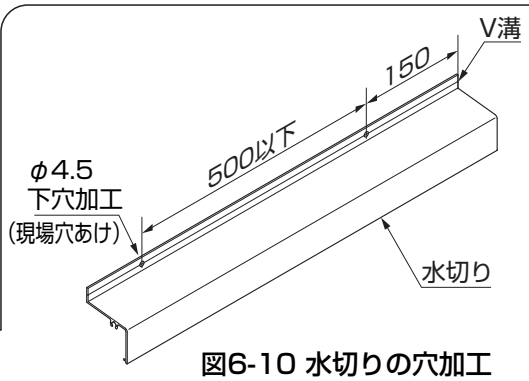


図6-10 水切りの穴加工

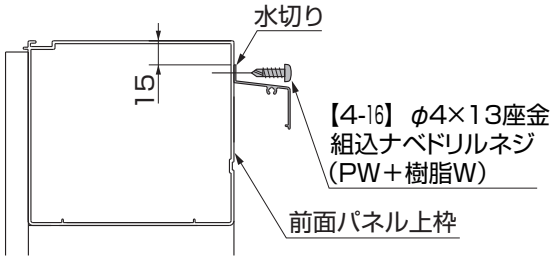


図6-11 水切りの取付け

①前面パネルと側壁部分にシーリング処理してください。(図6-9参照)
②水切りのV溝部分に、水切りを取付ける下穴（φ4.5）を水切りの端部から150mmの位置にあけて、中間を500ピッチ以下であけてください。(図6-10参照)
③水切りの立上げ部分を、前面パネル上枠から15mmの位置にして側壁から6mmすき間をあけて、【4-16】で取付けてください。(図6-11参照)

6-7 笠木の仮取付け

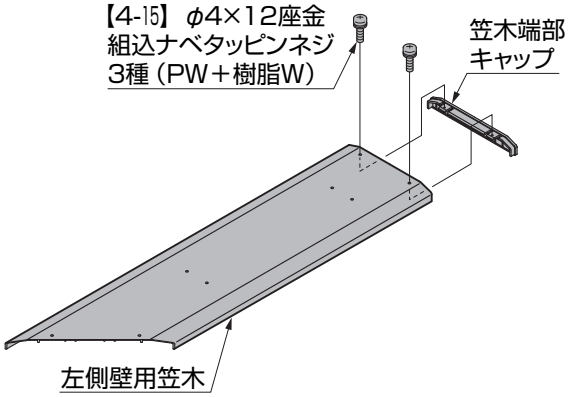


図6-12

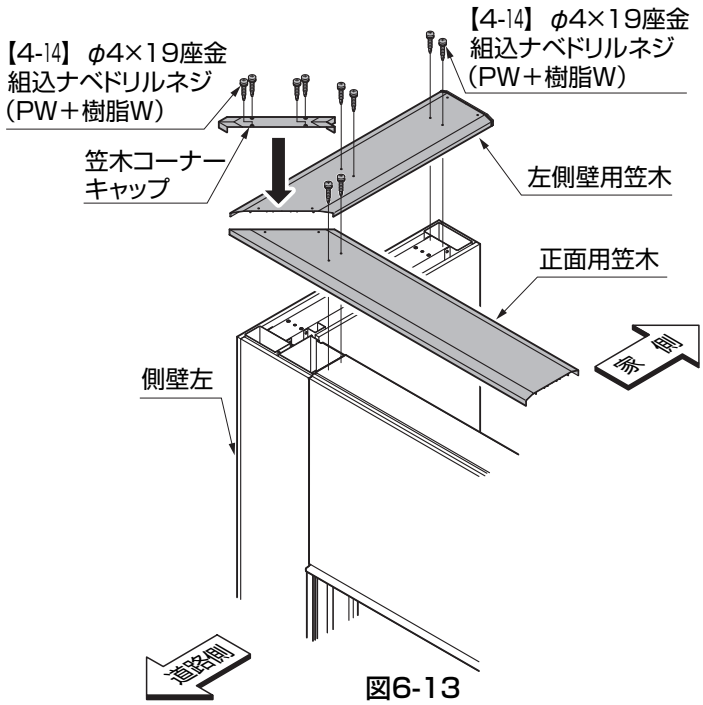


図6-13

補 足

●各笠木は仮取付けのため、ネジを完全に固定しないでください。

①左右の側壁用笠木に笠木端部キャップを【4-15】で取付けてください。(図6-12参照)
②笠木正面用、笠木側壁用、コーナーキャップを【4-14】で仮取付けしてください。(図6-13参照)

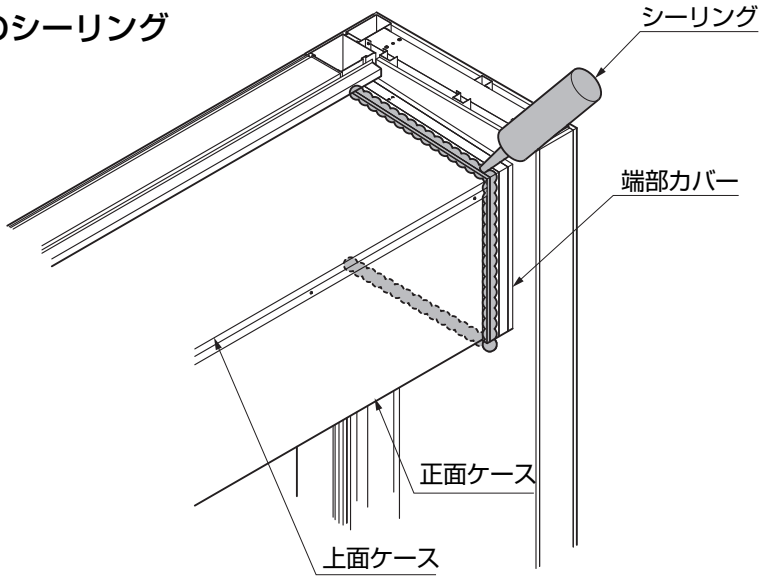
7. シャッターの施工 S 工事

ポイント

●シャッターの取付けに関しては、三和シヤッター工業（株）様の施工となります。

8. 壁ユニットの施工2 販 工事

8-1 端部カバーのシーリング



①シャッターの施工が完了したら、端部カバーのまわりにシーリング処理してください。

8-2 笠木の取付け

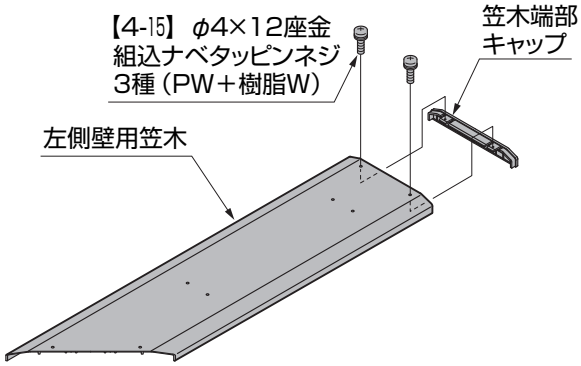


図8-1

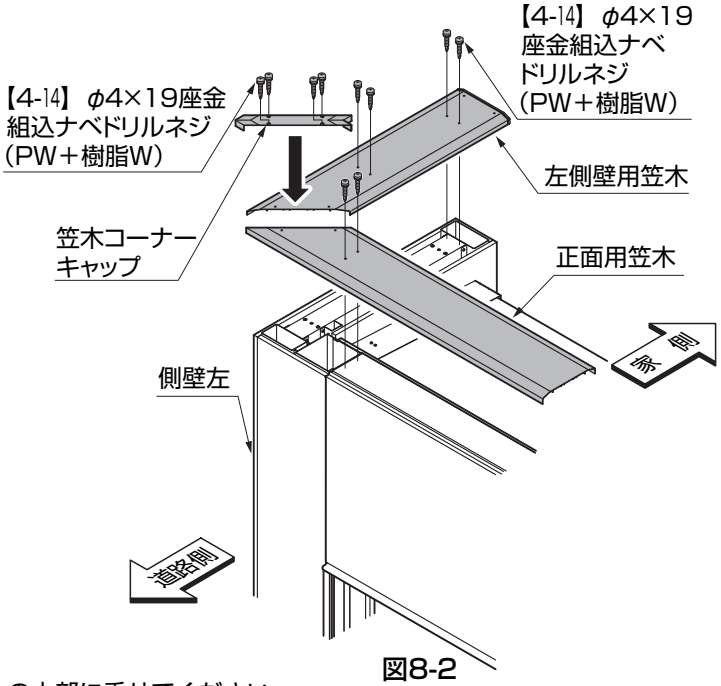


図8-2

①シャッター施工時に取外した笠木を、壁ユニットの上部に乗せてください。
②左右の側壁用笠木に笠木端部キャップを【4-15】で取付けてください。（図8-1参照）
③笠木正面用、笠木側壁用、コーナーキャップを【4-14】で取付けてください。（図8-2参照）

D577_201403A

8.（つづき） 販 工事

8-3 表面材の仕上げに関する各部の寸法

※表面材の仕上げを行なう前に、別紙「Cタイプ仕上げ施工注意説明書」を必ずお読みください。

（1）側壁断面の寸法

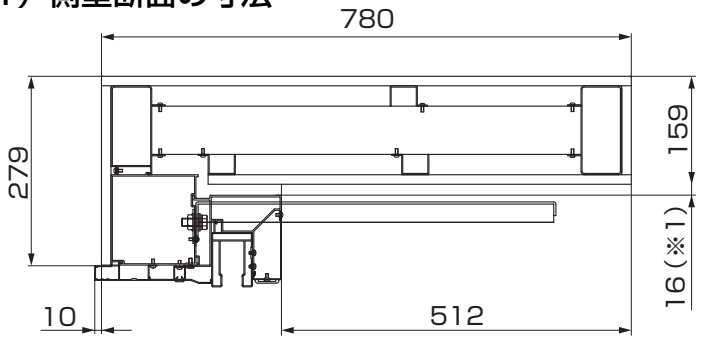
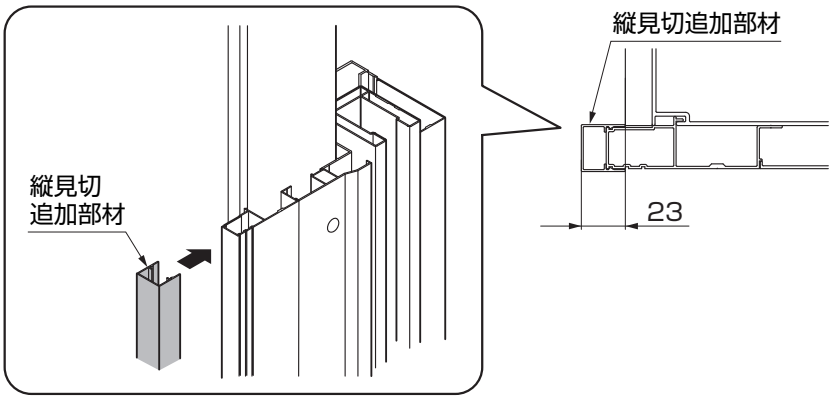


図8-3　側壁断面納まり



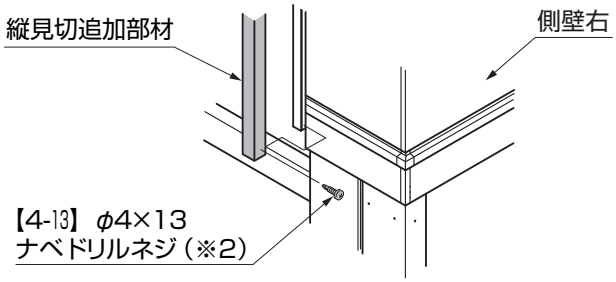


図8-4　縦見切追加部材を取付けた場合

ポイント

●縦見切材部分の出寸法は10mmです。それより厚い仕上げ材を使用するときは、側壁に同梱している縦見切追加部材を取付けてください。

①縦見切材追加部材にあて木等の保護をして、ゴムハンマー等で軽くたたき込んでください。

ポイント

●縦見切材やレールステイなどアルミ部材には表面仕上げ前にマスキングをして、タイル接着剤や塗料などが付着しないようにしてください。

●縦見切追加部材が上下にスライドしてガタつく場合は、【4-13】で固定してください。（※2）

補 足

●縦見切追加部材を取付けた場合は、下地材との出寸法は23mmです。

●出寸法が10mmで足りる場合は、縦見切追加部材を取付ける必要はありません。

●※1は、側壁内側の下地面とレールステイとのすき間をさしています。

（1）笠木および巾木部分の寸法

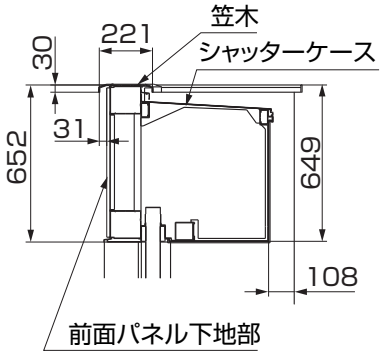


図8-5
前面パネル部納まり

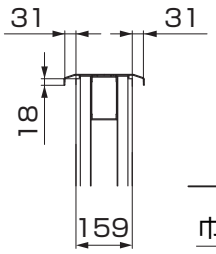


図8-6
側壁部納まり

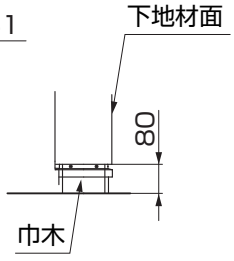


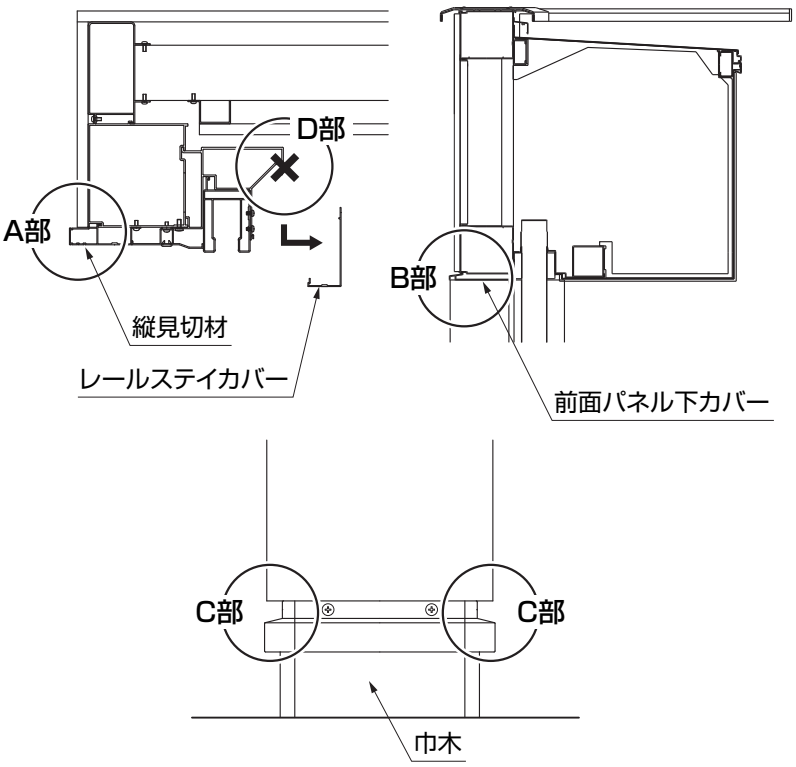
図8-7
巾木部納まり

ポイント

●笠木や巾木、シャッターケース部などアルミ部材には表面仕上げ前にマスキングをして、タイル接着剤や塗料などが付着しないようにしてください。

D577_201403A

（2）表面仕上げ後にシーリング処理が必要な箇所



①表面仕上げが終わった後に
A部：縦見切材または縦見切追加部材と仕上げ材とのすき間
B部：前面パネル下カバーと仕上げ材とのすき間
C部：巾木と仕上げ材とのすき間のシーリング処理をしてください。

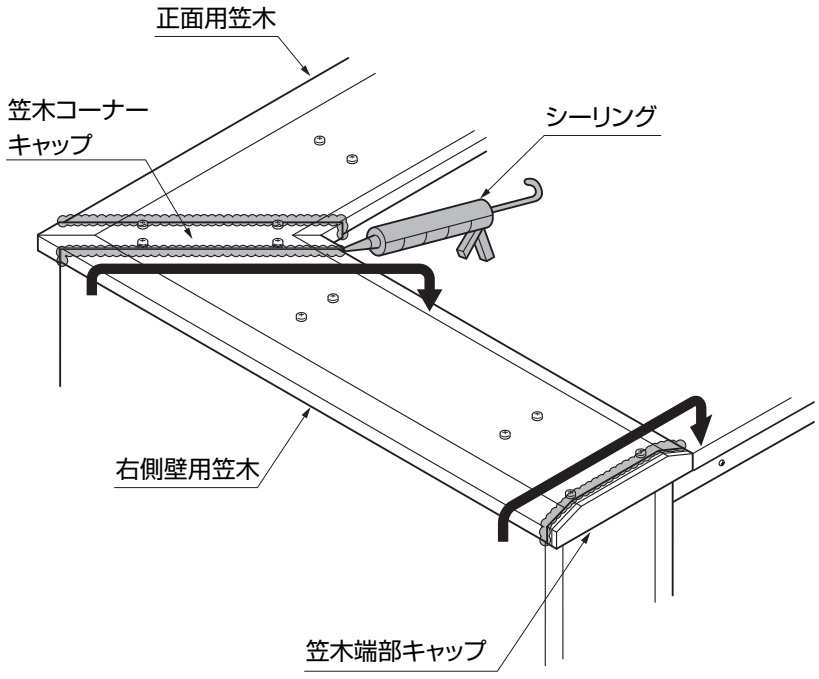
注意

●仕上げ施工後にシーリング処理をしないと下地材まで雨水が浸入し、ソリや膨らみ、仕上げ材の剥離などが発生するおそれがあります。
●D部のレールステイカバーとのすき間はシーリングしないでください。レールステイカバーが外れなくなり、シャッターのメンテナンスができなくなります。

補足

●シーリング材は現場手配です。仕上げ材の色などに合わせて選定してください。
●シーリング材は、変成シリコーン系をご使用ください。

8-3 笠木のシーリング処理

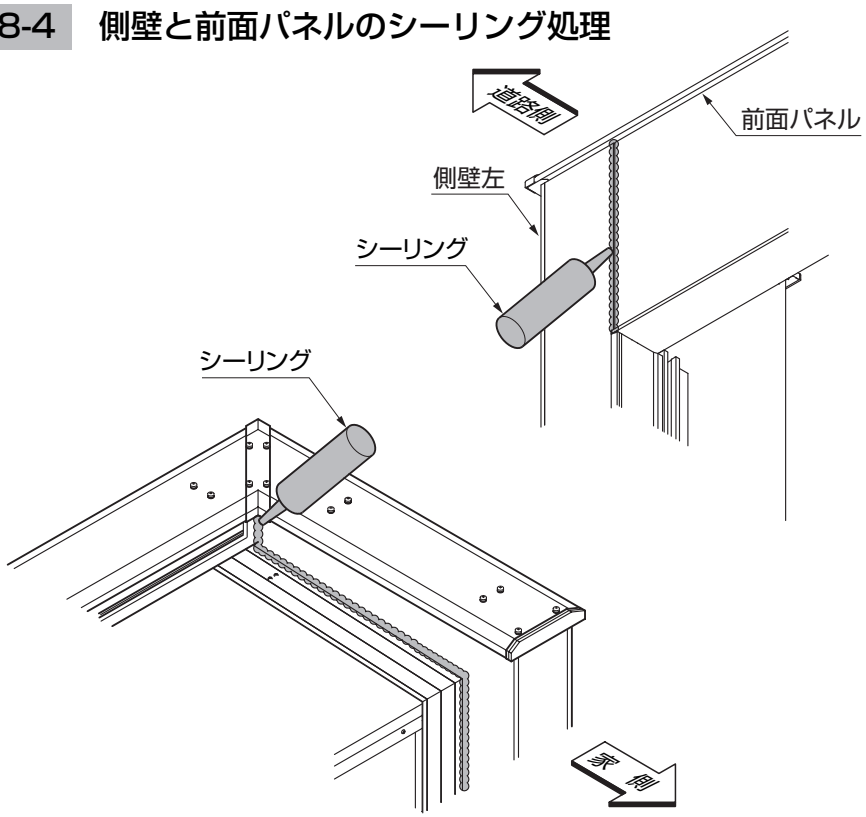


①笠木コーナーキャップの両端をシーリング処理をしてください。

②笠木端部キャップ部をシーリング処理をしてください。

8.（つづき） 販 工事

8-4 側壁と前面パネルのシーリング処理

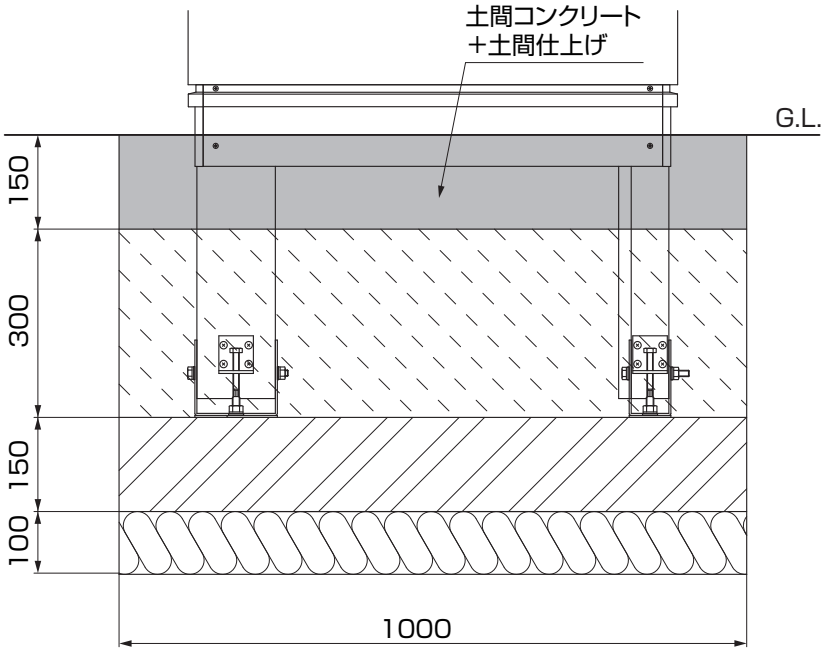


①両側壁と前面パネルの合わせをシーリング処理してください。

注 意

●必ず、塗布箇所のマスキングを行なってからシーリング材の処理を行なってください。表面処理の密着不良の原因になります。

8-5 土間コンクリートの打設



①G.L.ラインまで土間コンクリートを打設してください。

取説コード
D577

JZZ626333
201403A_1039